

## 日本人ノ脊髄(第一報告)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38639">http://hdl.handle.net/2297/38639</a>

十全會雜誌

(第貳拾六號)

原 著

○日本人ノ脊髓 (第一報告)

京都醫科大學解剖學教室ニ於テ

解剖學助手  
醫學得業士

久 保 武

(都京)

左ノ一編ハ本年一月二十日發行東京醫學會雜誌第十七卷第二號ニ登載セラレタル者ナルガ今本會特別會員タル著者ノ許諾ヲ經テ茲ニ之ヲ掲載スルコトセリ (編者)

緒 言

題シテ日本人ノ脊髓ト云フ、閱者或ハ其名ノ傲慢過大ナルヲ愕ルナラム、蓋シ余ガ余ノ此表題ノ下自ラ行ヒタルコトハ最モ單純ナル一二ノ肉眼的計測ニ過ギザルナリ、而モ敢テ憚ラズ今之ヲ茲ニ公ニセムト欲スル所以ノモノ詢ニ偶然ニアラザル也

由來日本人腦ニ就テ學者ノ研究調査稀ナラザルニ係ラズ、獨リ脊髓ニ就テ之ガ調査報告ヲナセルモノ余未ダ耳ニセザルナリ

日本人脊髓測定ノ當ニ人類學的ニ興味ノ存スルノミナラズ實ニ我解剖學上又豫メ其位置景態大小等ヲ制定スルコトノ須要ナルハ素ヨリ言ヲ俟タザルナリ

曩ニ余ノ當解剖學教室ニ轉ズルヤ早ク恩師鈴木博士ハ余ニ脊髓ノ計測ヲ企テムコトヲ命ゼラル余魯鈍事ヲ行フニ敏ナラズ將タ當時猶教室ノ創設ニ際シ諸般ノ整備ニ追ハレテ十分ノ時ヲ得ズ只餘暇僅ニ此調査ニ供シ得タル材料ニ就テ計測シタルモノヲ總括シ茲ニ(第一報告トシテ)其結果ヲ開陳セントス而モ今此成績ノ如キハ學海ノ一滴固ヨリ掬スルニ足ラズ將タ余ハ斯ノ如キ少數ヲ以テ今強テ理論ヲ歸納スルヲ欲セズ然レモ多數ノ材料ノ如キハ實ニ長日月ヲ要シ又一箇人ノ企圖ニテ完成シ得ベキニアラズコレ余ガ茲ニ先ヅ一般調査ノ方針ヲ記シテ世上普ク學者ノ斯ノ如キ測定ニ就事セラレンコトヲ切望スル所以ニシテ余ハ實ニ今尙業ノ中途此不足ノ材料ヲ掲ゲテ以テ他日ノ資トナサント欲スル微意ニ出デシノミ殊ニ緊要ノ事項ニシテ尙調査シ及バザルモノ多キハ深ク大方ニ向テ謝セザル可カラザル所ニシテ今後余ハ尙ホ益々弘ク此ノ種ノ研究調査ニ勉メ更ニ重テ報告スルコトアラン讀者幸ニ之ヲ諒セヨ

總論

第一 材料ニ關スルコト

材料ハ明治三十四年六月以降當大學解剖學教室ニ於テ收領シタル死體ノ中特ニ調査ノ許可ヲ得タルモノニシテ其數貳拾五體外ニ生後二ヶ月ノ一女兒ニ就テ計測セリ

貳拾五屍中八體(L. N. 117, 119, 128, 155, 165, 170, 190.)ヲ除クノ外ハ脊髓ト同時ニ腦ヲモ測定セリ即  
 脊髓計測死體總數貳拾五、内、男性拾七、女性八體ニシテ脊髓及ヒ腦同時ニ計測シ得タルモノ、拾七  
 體內男性拾貳、女性五體ナリ (第一表參照)

第二 測定點及方法

余ハ茲ニ余ガ調査ニ際シテ取レル方法ト同時ニ測定點ノ全般ヲ列序セムトス、若シ夫レ其方法  
 ノ不可ナルベキモノハ一ニ大方諸賢ノ教正ヲ仰グノミ  
 余ノ毎ニ死體ニ接スルヤ、腦脊髓ノ開檢ニ先チ最初其

(一) 體重、Körpergewicht

ヲ秤ラムトセリ、然レモ死體ノ大多數ハ其前、病理解剖ニ附セラルト、將タ種々ノ事情ノ爲メ、余自  
 テ之ヲ行フコト能ハザリキ、即病理解剖前又ハ生前病中、秤リタルモノニ依リ、悉ク其正シキヲ撰  
 べリ、次デ余ハ其

(二) 身長、Körperlänge

ヲ計レリ、死體ヲ解剖臺上仰臥ノ位置ニ於テ可成の眞直ノ姿勢ニ正シ、頭頂面及足蹠面ニ沿フテ  
 木板ヲ當テ、臺ノ側緣ニ二線ヲ劃シ卷尺ヲ以テ此間ヲ計測ス  
 次ニ余ハ脊髓ノ計測ヲ行フ前、病理解剖ニ於テ頭腔ノ開檢セラレザルモノハ悉ク

(三) 腦重量、Hirngewicht

ヲ秤定セリ、余ハ尙之ト同時ニ頭蓋及腦ニ就テ二三ノ計測ヲ行ヒ、別ニ之ヲ調査セリ、是等ハ本問

題外ニ屬スルヲ以テ茲ニハ掲載セズ

頭腔切開——腦ノ剔出——衡定ノ法式

式ノ如ク先ヅ軟頭蓋ヲ剝離シテ之ヲ前後ニ遠ク翻轉シ、次デ硬頭蓋ハ其最大ナル直經ヲ有スル  
トコロニ於テ鋸斷セリ、硬頭蓋ノ全ク離放セラル、ヤ、腦硬膜ヲ硬頭蓋ノ鋸斷緣ニ沿フテ切り離  
チ之ヲ翻轉シ各腦神經根ハ骨ニ接シテ悉ク離斷シ、延髓ハ其下界ニ切り、斯クテ全腦ノ剔出後、數  
分時之ヲ布片ノ上ニ置キ十分其周圍ニ附着セル血液及水分ノ吸收セルヲ待テ之ヲ權衡上ニ移  
セリ、終ツテ余ハ皆之ヲ5%ノフオルモール液中ニ貯ヘタリ、次デ余ハ脊柱及ヒ脊髓ノ計測ニ着  
手セリ

脊椎管腔切開——脊柱對脊髓ノ計測——脊髓ノ剔出——脊髓ノ計測——脊髓ノ衡定

解剖術式ニ從ヘバ脊椎管腔ノ検査ハ腦腔腹腔ノ開檢前ニ之ヲ行フベキモノトス、然ラズンバ胸  
腹内ノ汚液及血液其他腸胃内容物等必ズ死體ヲ俯臥スルガ爲メ卓上ニ汎濫シ、加之脊椎鋸使用  
ノ際等ニ於テ胸腹腔内ノ空虚トナレル時ハ、輒ク動搖シ甚ダ不便ヲ來タスベキナリ、然ルニ余等  
ガ得タル死體ハ、每常殆ンド病理濟解剖ノモノナリシナリ、其偶々全死體ヲ得ル時ハ、諸種ノ藥液  
注入ヲ施スガ爲メ容易ニ檢スルノ機會ヲ得ザリシナリ、是故ニ余ハ、每回死體ヲ卓上俯臥ノ位置  
ニ置キ先ヅ頸下ニハ



狀木枕ヲ當テ、下腹部ニモ高キ木枕ヲ挿入シ、全軀ヲ固ク支定シ、

次デ脊椎棘狀突起ノ側線ニ沿フテ外後頭結節部ヨリ肛門直上部ニ至ル迄深ク縱割シ、軟部ヲ棘  
狀突起ノ兩側ヨリ悉ク剝離シ、殊ニ各椎弓部ヲ可及的遊離シ、脊椎各部ノ位置ヲ豫メ能ク調知シ

後脊椎鋸ヲ取レリ、但シ從來弘ク用ヒラレタルモノハ所謂 Luer'sches Doppelhakenkom ト稱ス余ノ使用シタルモノハ之ヲ改良シ把柄ノ對端ニ更ニ尙一ノ小把柄ヲ附シ左手ノ把握ニ便セリ、鋸斷ハ寧ロ深キヲ可トス、猶淺キハ鑿槌子ヲ以テ離斷シ、順次椎弓根部ヨリ鉗子ニテ鋸斷線ニ沿ヒ上下全ク骨質ヲ取り除キ、斯クテ脊椎管腔ノ後壁開カレ、脊髓硬膜ノ後面露出スルヤ先ヅ下腹部ニ於ケル木枕ヲ去リ、頸下ニ存セル木枕ハ其儘固定シ、而シテ脊椎管内ニ有スル脂肪結締組織ハ悉ク之ヲ除去シ、脊髓硬膜ト其ニ位置、經過并ニ之ヨリ發出セル神經根束ハ、下方馬尾叢部ニ至ル迄一々明ニ遊離シ、終テ先ヅ

(四) 脊柱ノ長サ、 Wirbelsäule-Länge

ヲ計測セリ、余ガ調査ニ際シテ之ヲ計リタルハ實ニ脊髓ノ長サニ對スル直接ノ關係ヲ知ルニアリシナリ、故ニ余ハ上端ハ後頭大孔ノ下緣ヲ起點トシテ、茲ニ鋼鐵卷尺ヲ固定シ、之ヨリ脊椎管ニ沿ヒ其彎曲ニ從ツテ之ヲ計測セリ、但シ余ハ便宜上脊柱ノ長サヲ二種ニ區別セリ、即下端薦骨基底ニ至ルモノト尾閭骨尖端ニ至ルモノ之レナリ、前者ヲ第一種、脊柱長トナシ、後者ヲ第二種、脊柱長トナセリ、蓋シ歐洲人ニ就テ諸家ノ計查スルトコロニヨレハ脊柱ノ長サノ測定點及方法區々トシテ一定セザルナリ、或ハ脊柱ノ彎曲ニ準シテ計測スルアリ、或ハ彎曲ヲ問ハズ脊柱鉛直ノ方向ニ於テ計ルアリ、或ハ脊柱ノ前側并ニ背側ニ於テ計ルアリ、又脊柱ノ上端ヲ樞軸ノ齒狀突地ノ尖頂ヨリ起算スルアリ、載域弓ノ上際ニ於テスルアリ、後頭大孔ノ下線ニ於テスルアリ、又脊柱ノ下端ヲ薦骨基部迄ニ限レルモノアリ、尾閭骨尖端ニ至ル迄計ルモノアリ

ベルツハ人類學的ニ本邦人ニ就テ外側ヨリ其彎曲ニ從ツテ計リ取り、而シテ其着立ノ長サヲ知ラント欲セバ宜シク凡ソ *Scm* ヲ減スベシト言ヘリ

ラウエーチル *Havenel* ハ脊柱ノ長サヲ薦骨基底迄其前側ト背側トニ於テ計査シ、兩者甚ダ相違ノ關係アルコトヲ揚言セリ、次デ余ハ

(五) 脊柱各部ノ長サ、 *Länge d. einzelnen Abschnitte d. Wirbelsäule*

ヲ計測セリ、余ハ常ニ前記後頭大孔下縁ヲ起點トシテ其彎曲ニ沿フテ計リ、各部ノ境界ハ各々椎間軟骨ノ中部ヲ以テ當テタリ、詳言スレバ上記起點ヨリ第七頸椎ト第一胸椎間ニ當レル椎間軟骨中部迄ヲ頭部ノ長サトナシ、之ヨリ以下第十二胸椎ト第一腰椎間ノ中部ニ至ル迄ヲ胸部ノ長サトシ、之ヨリ第五腰椎ト薦骨基底トノ中間ヲ腰部ノ長サトナシ、以下尾闕骨ノ尖端ニ至ル迄ヲ骨盤部ノ長サトナセリ、斯クテ余ハ直ニ此位置ニ於テ上端ヨリ下方硬膜囊下端ニ至ル迄脊髄硬膜ヲ縱割セリ、尙此際豫メ脊髄硬膜ニ頸部ノ下界、胸部ノ中央、第六胸椎ノ下界、及ヒ胸部ノ下界ニ相當シテ小横切開ヲ加ヘ、之ヨリ上下ニ向ツテ徐々ニ切開セリ、但シ頸膨大部、腰膨大部等ハ特ニ傷ケザル様注意シテ剪刀ヲ送ルベキハ言フ俟タズ、茲ニ於テ余ハ初メテ脊髄ノ計測ニ着手セシナリ、余ハ先ツ

(六) 脊髄ノ長サ、 *Rückenmarkslänge*

ヲ計レリ、脊髄ノ長サヲ知ルニハ第一、其上界ト下界トヲ制定セザル可カラズ、余ハ通常脊椎管内ニ置カレタル儘自然位置ニ保存シテ計リシガ故ニ組織學的精緻ノ純境界ヲ知定シ難カリシト

雖<sup>ニ</sup>余ハ尙其例規ヲ一ニセムガ爲メ、常ニ後頭大孔、下緣ニ相當シテ、鋼鐵卷尺ヲ固定シ之ヲ上界トシテ起算シ、下界ハ椎體ノ尖端迄計リ取レリ、椎體下界ノ初メ確知スルコトノ難キハ計測ニ臨ミテ皆人ノ苦ムトコロナルベシ、余ハ最初只大凡ソヘンレー Henle ラウベル Rauber ノ所謂直經 1.3mm ヲ有スル厚サノ處迄ヲ此標點トナセリ、脊髓上界ニ就テハ古來學者ノ定説アリ、人類及多數ノ哺乳動物ニアリテハ脊髓ノ上界ハ實ニ第一頸神經根最上東ノ發出部位載域及後頭骨間ヨリ脊椎管ヲ通過ス(ニ一致セリ、又彼肉眼上既ニ延髓ノ前側ニ於テ認知スベキ纖維束ノ交叉所謂錐狀體交叉 Decussatio pyramidum モ畧此境界ノ標目タルヲ得ベシ、即人類及多數ノ哺乳動物ニアリテハ此交叉又東ノ最下界ヲ以テ脊髓ノ上界ト制定シテ可ナルベシ、但シ椎狀體交叉自己ハ延髓ニ屬シ又第一頸神經ノ發出部域ハ脊髓ニ屬スルコト言フ俟タズ、次ニ脊髓ノ下界所謂錐體 Markkegel, Conus medullaris ノ尖端ニ就テモ既記ノ如ク漸次尖端ニ終リテ遂ニ終線 Filum terminale ニ移行スルガ故ニ錐體ト終線トノ界ヲ認知スコト肉眼的ニハ頗ル困難ナルナリ、ラウベル Rauber ハ脊髓ノ下部ハ圓錐形トナリ直徑 1mm ヲ有スル尖端ニ迄縮小シ而シテ之ヨリ以上ハ終線ニ經續スト云フ又ヘンレー Henle ハ脊髓ノ下端 (Conus terminalis, Conus medullaris) ハ圓錐形ノ尖端ヲ以テ下方終線 (Endfaden, Filum terminale) ニ移行シ、茲ニ 2mm ノ徑ニ於テ退縮スト云ヘリ、尙脊髓ノ終線ニ向テノ移行部ニ於テ多クノ解剖家 (Huber, Haller, Froscher, Sommering u. s. w.) ハ一ノ淺キ絞窄 Einschnürung ニ由テ分タレタル二箇ノ隆起此上ニ尙稀ニハ二箇ノ弱キ隆起ヲ見ルコトアリ、實驗セリト云フ、最モ多クハ此形成ハ軟化セル脊髓ノ一ノ熔解 Zerrung ノ結果ト看做サル、



ナリ然レヒワレンチン Valentin ノ如キハ新鮮ナル器臟ニ於テモ之ヲ認識セリト主張セリ、兎ニ角是等ハ一回一回實驗ヲ重ヌルニ從ヒ愈々正鵠ヲ得ルニ近カルベシ、斯クテ余ハ更ニ

(七) 脊髓各部ノ長サ Länge d. einzelnen Abschnitte d. Rückenmarks

ヲ計測セリ、即豫メ第八頸神經根束、第十二胸神經根束、及第五腰神經根束ヲ推間孔ノ内口ヨリ追及調知シテ各神經根束發出部ノ下界線ヲ標準トナシ、前記脊髓上界點ヨリ卷尺ヲ以テ計算シ、其第八頸神經根束ノ下界線迄ヲ頸部ノ長サトナシ、コレヨリ第十二胸神經根束ノ下界線迄ヲ胸部ノ長サトシ、茲ニ第五腰神經根束ノ下界線迄ヲ腰部ノ長サトナシ、以下脊髓下端迄ヲ全ク骨盤部ノ長サトナセリ余ハ尙是ト同時ニ

(八) 脊髓各部ノ下界位 Untere Grenzen d. einzelnen Abschnitte des Rückenmarks.

ヲ調査セントセリ、即脊椎骨ニ對スル高サノ關係ヲ知定スルニアリ、然レモ此内、頸部、胸部、腰部等ノ下界位ニ就テハ余ガ本調査ニ從事シテ後遅ク着意シ漸ク最後ノ二三ニ於テ之ヲ計測シタルノミ、又薦骨、尾閭骨部ノ下界位ノ如キハ實際上之ヲ檢索スルコト難カリシナリ、只余ハ

(九) 錐體下界位 Untere Grenze d. Conus medull.

ニ就テ悉ク之ヲ調査セリ、即錐體下端ガ脊椎骨ノ第何位ノ上、中、下部ニ相當セルヤヲ檢測シ尙又

(一〇) 硬膜囊下界位 Untere Grenze d. Duralsacks

ヲモ測定シタリ、次テ余ハ終線ノ長サヲ計測セリ、錐體ハ前記ノ如ク下方ハ糸狀ノ景態所謂終線 Filum terminale ニ移行シ、遠ク尾閭骨ノ後面ニ追及シ得ベシ、ルシユカ Luschka ハ硬膜囊内ニ遊離シ

テ存在スル部ヲ内終線、*Filum terminale internum*ト云ヒ、硬膜囊外ニ存スル最尾端部ヲ外終線、*Filum terminale externum*ト名命セリ、而シテ此部分ニアリテハ最早ヤ毫末モ神經成分ヲ含蓄セズ、殊ニ末端尾閶骨ノ後面ニ於テ弘ク扇狀ニ分撒シ、明ニ其下界ヲ知定スルコト實際上困難ナリシナリ、余ハ椎體ノ下界ヨリ硬膜囊下界位迄ヲ

(一一) 内終線ノ長さ、*Länge d. Filum term. int.*

トナシ、コレヨリ以下扇狀ニ解撒セル根底部迄ヲ

(一二) 外終線ノ長さ、*Länge d. Filum term. ext.*

トナセリ、次ニ余ハ

(一三) 頸膨大位置、*Lage der Halsanschwellung*

(一四) 腰膨大位置、*Lage der Lendenschwellung*

ヲ調査セリ、即兩膨大部ノ位置區域ヲ知ラムガ爲メ其上界下界ガ脊錐骨第何位ノ上、中、下部ニ相當セルヤヲ檢測セリ、チーヘン *Ziehen* ハ腰膨大ノ下界ハ直接錐體ニ移行シ頓ニ著シク其弘サヲ減縮スルガ故ニ腰膨大ト錐體トノ間ニハ銳キ區界ヲ定メ難シトナシ、頸膨大ハ單ニ錐體下部ヨリ始ルモノト記載セリ、ヘンレー *Henle* モ亦頸膨大ノ上界ヲ言ハズシテ只其下界ノミヲ擧ゲ、腰膨大ハ其上界ノミヲ起シテ下界ヲ論セザリシナリ、ラウベル *Rauber* ハ其著書ニ兩者ノ上界下界ヲ掲載セリ、而シテ余ガ本調査ニ於テモ亦頸膨大ノ上界及腰膨大ノ下界ハ實ニ之ヲ明確ニ知定スルコト難カリシナリ、次ニ余ハ細微兩脚器ヲ以テ比較試驗シツ、

- (一五) 頸膨大最大部位 *Grosste Stelle d. Halsansch.*  
 (一六) 胸髓最小部位 *Kleinste Stelle d. Brustmarkes.*  
 (一七) 腰膨大最大部位 *Grosste Stelle d. Lendenabsch.*

ノ三部ヲ知定シ、之ヲ豫メ脊髓硬膜縁ニ截刻シテ位置比較ノ目標ニ當テ而シテ是等三部位ガ脊椎骨第何位ノ上、中、下部ニ相當セルヤヲ測定セリ、是ニ於テ始メテ兩側ノ神經根束ヲ硬膜囊外ニ於テ切り放チ、脊髓ノ末端ヨリ硬膜ト共ニ漸次剪刀ヲ送ツテ、歩一步之ヲ脊椎管腔内ヨリ剔出セリ、此際特ニ脊髓ヲ屈折壓攢又ハ牽引セザル様注意スベキハ素ヨリ言ヲ俟タズ

今ヤ剔出セラレタル脊髓ハ卓上布片ノ上ニ持チ來タシ、豫メ硬膜ニ截刻セル上記三部位ニ相當シテ横徑、矢狀徑及周圍ヲ計リ、茲ニ

- (一八) 頸膨大最大部位ノ横徑、矢狀徑及周圍  
 (一九) 胸髓最小部位ノ横徑、矢狀徑及周圍  
 (二〇) 腰膨大最大部位ノ横徑、矢狀徑及周圍

ヲ測定シ、次デ硬膜及神經根等悉ク除去シ、上界及下界ヲ切り正シ最後ニ

- (二一) 脊髓重量 *Rückenmarksgewicht*

ヲ測定セリ、ピシヨフ *Bischoff* ハ凡テノ神經根ヲ包括シテ秤レルモノト、神經根ヲ去ツテ秤レルモノトヲ比較シ男女兩性全ク反對ノ現象ヲ呈ストナセリ、余ハ前記多クノ計測ノ爲メ神經根ヲ包括シテ秤量スルノ便宜ヲ得ザリシナリ、又余ガ秤上ニ移セル迄ニハ脊髓皆一定時ヲ經テ全シ其

表面ニ附着セシ血液、水分等ハ除去セラレ、悉ク正確ナル秤量ヲ得タルモノト知ルベシ  
 斯クシテ得タル脊髓ハ余ハ皆之ヲ三%フオルモールアルコール液ヲ盛リタル長硝子壺中ニ吊  
 シ貯ヘタルナリ。

各 論

第壹篇 脊髓大サノ關係(第一表參照)

Größenverhältnisse des Rückenmarks.

第壹章 長サノ關係 Längeverhältnisse.

(第一) 脊髓ノ長サ Die absolute Länge des Rückenmarks.

余ガ二十五名ノ死體男屍十七、女屍八ニ就テ計測セシトコロニヨレバ其成績次ノ如シ

日本人脊髓ノ長サ

男子ニアリテハ最大 46cm. 最小 41cm ニシテ平均 43cm ナリ

女子ニ在リテハ最大 45,6cm 最小 39,5cm ニシテ平均 42,8cm ナリ此差 1,5cm トス

次ニ歐洲人ニ就テ測定セシモノヲ摘録セムカ

チーヘン Ziehen ノ記載ニヨレバ

脊髓ノ長サ Die absolute Länge d. Rückenmarks.

歐洲男子(成人) 平均 45cm

歐洲女子(成人) 平均 43cm

ラウエナル Ravenel ハ男女各十一名ニ就テ計測シ (1887) 其報告スルトコロニヨレバ

男子 平均 44,8cm (39-48cm)

女子 平均 41,3cm (37-46cm)

デーデマン Tiedemann ヲモマシ

歐洲男子 46,7cm

歐洲婦人 40,9cm

又黒奴 Neger ニ於テハ 40,3cm ナリト云フ、ヘンリー Henle ニモレバ

大人ニ於テハ最モ多クハ 45cm ナリト云フ

フェースト Feist ニヨレバ

男子 平均 45cm (41-50cm)

女子 平均 43,8cm (40-47,5cm)

ウイルヒヨー Virchow ハ全脊髓ノ平均長徑

男子 44,8cm

女子 41,7cm ナリトセリ

アルノルド Arnold ニヨレバ

女子ハ脊髓下端ハ男子ヨリモ下方ニ位シ其長サハ平均 111cm ナリト云フ

又男女兩性ニ就テハチーヘン Ziehen ハ次ノ如ク記載セリ

男女兩性ニ於テ各脊髓ノ長サハ男子僅差異ノ間ヲ昇降シ女子ハ甚ダ大ナル差異ヲ呈スルモノナリ即

男子ハ 43,5-46,5cm ノ間ニアリ

アイツツチル Pfitzner ハ 44-50,5cm トナセリ

(Morphol. Jahrbuch 1884)

女子ニ於テハ 39,5-47cm ノ間ニアリト云フ

今試ニ上記諸家ノ計數ニ對シテ、余ガ此成績結果ヲ比較スルニ、余ハ實ニ歐洲人脊髓ノ長サニ比シ、日本人脊髓ノ長サノ大差ナク、殆ント相伯仲スルコトヲ知ルナリ、單ニ男性ニ就テ之ヲ對照スルニ只チーデマン Tiedemann ノ計數ニヨレバ彼ノ我ヨリ長キコト平均 2,4cm ニ及ベルモ爾他多數ノ報告ニ比スレバ此差ハ僅ニ 0,5cm 内外ニ過ギザルナリ、次ニ女性ニ在リテハ却テ歐洲婦人ニ超過セルモノ多カリシナリ、即只フェーエスト Felst ノ計數ニヨレバ彼ハ我ヨリモ平均 1cm 長カリシト雖モ爾他ノ報告ニ徵スレハ我ハ却テ 1,1cm (Virchow)-1,5cm, (Ravenel)-2,6cm (Tiedemann) 大ナリシナリ、故ニ若歐洲人脊髓ノ長サノ是ヲ以テ最早ヤ確固不變ノモノトスレバ、將タ余ガ此僅數ノ計測ニ於テスラ既ニ如斯キ關係アル以上ハ、余ハ確ニ日本人脊髓ノ長サノ比較的長キコトヲ推斷スルニ躊躇セルザナリ、而モ是レ實ニ人類學上顧慮スヘキ點ナリト思惟ス、詳細ハ後段身長トノ比較ノ箇條ニ於テ論セム、余ハ只茲ニ男女兩性ニ於テ比較スルニ男子ハ子女ヨリモ絶對的ニ大ナルコト、彼我全ク相一致セルナリ、然レモ更ニ兩性ノ差異ニ就テ、彼我相對照スルニ余ガ成

續ニ於テハ其差平均 1,5cm ヲ得タルナリ、然ルニ歐洲人ニ就テハ *Foet* 此差平均 1,2cm ナリトシ *Zielen* ハ平均 2cm トナシ *Virhow* ハ 3,1cm トナシ *Favencel* ハ 3,5cm トナシ *Tiedemann* ノ如キハ 6,5cm トナセリ、換言スレバ歐洲人ノ兩性ノ差異ハ概シテ我ニ比シ顯著ナリシナリ依之觀是日本婦人ノ脊髓ノ長サハ殊ニ比較的大ナルヲ認知シ得ベシ

次ニ男女兩性ニ於ケル脊髓長サノ差隔 *Schwankungsbreite* ニ就テハ余ハ全ク上記 *Zielen* ノ所説ト其見解ヲ異ニスルナリ *Zielen* ハ男子ハ女子ヨリモ僅差異ノ間ヲ昇降スト明言セルモ、余ガ此成績ニ於テ全然之ニ反シ

男子 48,41cm (差隔 7cm)

女子 45,6-39,5cm (差隔 6,1cm)

却テ男子ノ差隔ハ女子ヨリモ稍々大ナリシナリ

(第二) 脊髓各部ノ長サ *Die absolute Länge d. einzelnen Abschnitte des Rückenmarkes.*

余ハ尙進テ茲ニ脊髓各部ノ長サ及男女兩性ノ關係ヲ論述セムトス

余ガ男屍十二、女屍六體ニ就テ計測セルトコロニヨレバ次ノ如シ

日本人脊髓各部ノ長サ *Längenmasse d. Rückenmarksabschnittes,*

(一) 頸部ノ長サ

男子ニ在リテハ最大 10,5cm、最小 7,5cm ニシテ平均 9,1cm ナリ

女子ニ在リテハ最大 9,5cm、最小 7,3cm ニシテ平均 8,4cm ナリ 此差 0,7cm トス

(二) 胸部ノ長サ

男子ニアリテハ最大 27,3cm、最小 22,3cm ニシテ平均 25,1cm ナリ

女子ニ在リテハ最大 26,0cm、最小 21,3cm ニシテ平均 23,7cm ナリ 此差 1,4cm トス

(三) 腰部ノ長サ

男子ニ在リテハ最大 7cm、最小 4cm ニシテ平均 5,5cm ナリ

女子ニアリテハ最大 6,4cm、最小 4,2cm ニシテ平均 5,3cm ナリ、此差 0,2cm トス

(四) 骨盤部ノ長サ

男子ニ在リテハ最大 6,0cm、最小 3,5cm ニシテ平均 5,0cm ナリ

女子ニ在リテハ最大 6,0cm、最小 4,0cm ニシテ平均 4,9cm ナリ、此差 0,1cm トス

更ニ此比較的長サヲ記スレバ左ノ如シ

Relative Maassverhältnisse des Rückenmarkes

脊髓全長=100 各部平均長

頸部 男子 20,4 (20)% 女子 19,6 (20)%

胸部 男子 56,5 (57)% 女子 56%

腰部 男子 12,3 (12)% 女子 13%

骨盤部 男子 11,1 (11)% 女子 11,3 (11)%

次ニ歐洲人ニ就テ計測セルモノヲ對比セムカ



ラウエナル Ravelin ハ前記男女各十一名ニ就テ計測シ左ノ成績ヲ得タリ

歐洲人脊髓各部ノ長サ

- (一) 頸部 男子平均 9,9cm (11,5-8,0cm) 女子平均 9,6cm (10,5-8,5cm)
- (二) 胸部 男子平均 26,2cm (27,0-25,0cm) 女子平均 22,9cm (24,5-18,8cm)
- (三) 腰部 男子平均 5,1cm (7,0-4,2cm) 女子平均 5,7cm (7,2-0,7cm)
- (四) 骨盤部 男子平均 3,6cm (7,2-0,7cm) 女子平均 3,1cm (7,5-0,2cm)

即男女兩性ニ於テ各部ノ平均差(女子ハ男子ニ比シ)

頸部-0,3cm. 胸部-3,3cm. 腰部+0,6cm. 骨盤部-0,5cm. 全長-3,5cm

更ニ其比較的長サヲ記スルハ左ノ如シ

Relative Maassverhältnisse des Rückenmarkes

全長=100 各部平均長

頸部 男子 22,1 女子 23,2

胸部 男子 58,5 女子 55,4

腰部 男子 11,4 女子 13,7

骨盤部 男子 7,9 女子 7,6

兩性ニ於テ各部ノ平均差(女子ハ男子ニ比シ)

頸部+1,1 胸部-3,1 腰部+2,3 骨盤部-0,3

於是乎ラウエテル Ravenel ハ其結論ニ於テ言ヘリ

(1) 成人女性ノ脊髓ハ絶對的ニ男性ヨリモ短シ

(2) 女性ニ於テハ(恐クハ又小兒ノ脊髓ニ於テモ胸部ハ男子ヨリモ比較的短シ、頸部ハ比較的男

子ヨリモ長シト

又ラウベル Rauber ハ其著書ニ次ノ如ク記載セリ

脊髓ノ長サ平均	男子	44,8cm	全長=100	女子	41,3cm	全長=100
頸部ノ長サ平均	男子	9,9cm	22,1%	女子	9,6cm	23,2%
胸部ノ長サ平均	男子	26,2cm	58,5%	女子	22,9cm	55,4%
腰部ノ長サ平均	男子	5,1cm	11,3%	女子	5,7cm	13,8%
骨盤部ノ長サ平均	男子	3,6cm	8,0cm	女子	3,1cm	7,5%

今之ヲ余ガ成績ト對照スルニ大躰ニ於テハ彼我殆ンド、同様ナリシナリ、即胸部ハ男子ハ女子ヨリモ比較的長ク、腰部ハ反之女子ハ男子ヨリモ長キコト兩者全ク相一致セリ、然レモ頸部ハ余ガ成績ニ徴スレバ男子ハ女子ヨリモ微ニ長ク(殆ンド同等)骨盤部モ男女殆ンド同等ナリシナリ

(第三) 終線ノ長サ

Länge d. Filum terminale

脊髓錐體ノ下端ヨリ繼續セル終線ハ之ヲルシユカ Luschkaノ所謂内終線及外終線ノ二者ニ區別スベシ

内終線ノ長サ

男屍十五女屍八臑ニ就テ計測セシ處ニヨレバ

男子ニアリテハ最大 17.5cm 最小 10.5cm ニシテ平均 13.9(14cm) ナリ

女子ニアリテハ最大 15.4cm 最小 10cm ニシテ平均 12.9 (13cm) ナリ

外終線ノ長サ

男屍十六女屍八臑ニ就テ計算セシ處ニヨレバ

男子ニアリテハ最大 10.5cm 最小 7.0cm ニシテ平均 8.6cm ナリ

女子ニ在リテハ最大 9.5cm 最小 7.0cm ニシテ平均 8.36 (8.6)cm ナリ

今之ヲラウベル Rauber ノ記載ニ徴スレニ

内終線ハ兩側ノ腰及薦骨神經ノ長キ神經根ノ間ニ於テ正中ニ位シ硬膜囊ノ下部ニ包マレ第

二薦骨椎ニ達シ其長サ畧 16cm ヲ算スト云フ

又外終線ハ硬膜ノ連續所謂終線鞘 Vagina terminale ニヨリ狭ク被繞セラレ下方ハ筥狀ニ分撒

シ第二尾閭骨棘後面ニ至テ其骨膜ニ移行シ其長サハ畧 8cm ナリト云フ

即日本人ノ終線ノ長サハ歐洲人ニ比シ内終線ハ恐ク 2cm 内外短ク外終線ハ殆ンド大差ナカル

ベシ。

(第四) 脊髓ノ長サト脊柱ノ長サトノ比較

Vergleichung der Rückenmarkslänge mit derselben der Wirbelsäulänge.

余ハ脊髓ノ長サトノ比較的的關係ヲ知ラムガ爲メ、又豫メ脊柱ハ計測ヲモ行ヒタルナリ、今兩者ノ比較ニ際シ、余ハ先ヅ脊柱ノ長サニ就テ、少シク記述セントス

余ガ前記二十五名ノ死躰内男屍十七、女屍八躰ニ就テ測定セシ、第一種及第二種脊柱長ノ結果ハ次ニ示スガ如シ

日本人脊柱ノ長サ

第一種(後頭大孔下緣ヨリ薦骨基底迄)

男子ニアリテハ最大 60,5cm、最小 51,5cm ニシテ平均 55,5cm ナリ

女子ニアリテハ最大 58,5cm、最小 47,5cm ニシテ平均 51,8cm ナリ此差 3,7cm トス

第二種(後頭大孔下緣ヨリ尾閭骨尖端迄)

男子ニ在リテハ最大 77,0cm、最小 65,5cm ニシテ平均 72,1cm ナリ

女子ニ在リテハ最大 74,0cm、最小 63,5cm ニシテ平均 67,cm ナリ此差 4,2cm トス

之ヲ歐洲人ニ就キ計測セルモノト比較スルガ如キハ本問題外ニ屬スルヲ以テ茲ニ贅セズ、兎ニ角余ハ余ノ成績ニ徴シテ脊柱ノ長サハ男女兩性決シテ同等ナラズ、男子ハ常ニ絶對的ニ女子ヨリモ長ク此差平均 4cm 内外トナリ將タ尙之ヲ Ravenel, Ziehen, Krause, Arnold, 等ノ記載ニ對照シテ

日本人脊柱ノ長サハ歐洲人ニ比シ一般ニ大差ナキヲ知り得タルナリ、今余ハ茲ニ主トシテ上記脊柱ノ長サト脊髓ノ長サヲ比較シテ兩者ノ關係ヲ表示セムトス、左ニ第一種及第二種脊柱長ト脊髓長トノ平均數ニ就テ各之ヲ比算スレバ

第一種脊柱長 = 100

男子 79.9% (脊柱長平均 55.4cm 脊柱長平均 44.3cm)

女子 82.4% (脊柱長平均 51.8cm 脊柱長平均 42.3cm)

第二種脊柱長 = 100

男子 61.4% (脊柱長平均 72.1cm 脊柱長平均 44.3cm)

女子 62.8% (脊柱長平均 67.9cm 脊柱長平均 42.8cm)

即兩性共ニ女性ハ男性ヨリモ長ク殊ニ第一種ニ於テ其差大ナリシナリ

次ニラウエナル Ravenel が前記男女各十一名ニ就テ討查セシ所ニヨレハ左ノ如シ但シ Ravenel ハ脊柱ノ前側及背側ニ於テ載域弓ノ上際ヨリ薦骨ノ上際迄長徑彎曲ヲ計測セリ(其背側ニ於テセ  
ルモノ余ノ第一種ト一致セン)

Relative Länge des Rückenmarkes

脊柱背側 = 100

男子 平均 78.0 (87.8-70.9)

女子 平均 81.6 (86.8-74.3)

脊柱前側 = 100

男子 平均 75.3 (83.9-67.8)

女子 平均 74.0 (77.2-70.6)

即兩側ニ就テ平均男子 27%、女子ニ在リテハ 7.6%ノ差アリ、然レモ今脊髓ノ長サヲ脊柱前側ニ對比スルキハ其差僅小ニシテ女性ハ男性ヨリモ僅ニ (1.3%) 短シ、反之背側ニ對比セルキハ平均著シク女性ハ男性ヨリモ (3.6%) 長キナリ、蓋シコレ腰部ノ如キ彎曲ノ結果前側ハ長ク背側ハ短ク爲メニ前側ニ於テ脊髓ノ%長ハ下リ、背側ニ於テハ反之高クナルナリ

フエーラスト Felst 報告ニヨレハ

全脊柱ノ長サト脊髓長ヲ比較シテ

男子平均 1 : 1.62      女子平均 1 : 1.59

小兒(一—三ヶ月)      男性平均 1 : 1.59      女性平均 1 : 1.58

即女子ノ脊髓ノ平均ノ長サハ脊柱ト比較シテ僅ニ男子ノ脊髓ヨリモ長シトセリ

ヘン—Henleモ亦脊柱ノ長サニ對スル關係上ニ於テハ女性脊髓ハ男性ヨリ僅ニ長シトセリ、即一般ニ遠ク下方ニ達シ、錐體ハ第二腰椎中部ニ位スト云フ

チ—ヘン Ziehenハ其著書ニ於テ

脊柱ノ長サ(大後頭孔ヨリ薦骨基底迄)及脊髓ノ長サトノ關係ニ於テ、若シ脊柱長ヲ 100 トスレ

バ脊髓ノ長サハ男子ニアリテハ平均 64%ニシテ女子ニ在リテハ殆ンド同一ナリトセリ

要之日本人脊髓ノ比較的長サハ上記 Ravenel, Ziehenノ報告ニ徴スルモ多少大ナルヲ知ルベシ、又

男女兩性ニ就テハ余ハ Ziehenノ所說ニ反シ Felst, Henle及 Ravenel(背側ノモノニ相當ス)ト同シク

日本人脊髓長ハ脊柱ト比較シテ常ニ女性ハ男性ヨリモ長キコトヲ主張セント欲スルナリ

兎ニ角男女兩性ニ論ナク脊髓ハ脊柱長ニ對シ著シク短縮シ實ニ余ガ成績ニ徴スルモ殆ド脊髓ハ其 $\frac{3}{5}$ — $\frac{1}{5}$ ニ當レルナリ

脊柱長ト脊髓長トノ比較ハ發生史上親近ナル關係ヲ有シ且甚ダ興味アル問題ナリ若シ兩者ノ關係ヲ推知セムト欲セバ豫メ其發生ニ遡リテ講究セザル可カラズ

リュデングル *Rüdinger* ニヨレバ

脊髓ハ其第一原基及發生ニ於テ脊柱ト全ク同等ノ長サヲ有セシモノナリ然レモ彼我等シキ成長ノ差異ヨリテ兩者間又著シキ長サノ變違ヲ來セルナリ成人ニ於テハ脊髓ハ男子ハ第一腰椎ノ下端迄女子ハ第二腰椎ノ中部迄達ス

既ニ胎生期第三ヶ月ノ終リニ於テ脊柱ハ脊髓ヨリモ大ナル長サノ增長ヲ始ムルナリ、蓋シ初生兒ニアリテハ脊髓ハ其末端第三又ハ第四腰椎ノ高サニ於テ起レルモノナリ

アルノド *Arnold* ニヨレバ

胎生第三ヶ月迄ハ脊柱ノ全長ヲ收容セリ而シテ爾後益々身體ノ成長ト共ニ脊椎管ノ增長ト同等ニ進マズ比較的短小ナルナリ而シテ年齢男女ニヨリテ種々長サヲ異ニシ、屢々女子ニアリテハ男子ヨリモ遠ク下方ニ延長スルナリ

クンレー *Henle* ニヨレバ

初生兒ノ脊髓ハ比較的成人ヨリモ長シ、下界ハ第二腰椎ノ下緣ニ達ス、爾後成長ノ間ニ比較的此短縮ヲ見ルノ事由ニ至テハ尙未ダ精細ニ究知セラレザルナリト云フ

最近チーヘン Zielen ノ報告ニレバ

胎兒ニアリテハ胎生第一ヶ月ニ於テ脊髓ハ尙全脊柱管ヲ薦骨ノ下端迄充填セリ而シテ最初  
 脊髓ノ發生ハ脊柱ト共ニ殆ンド同等ノ歩武ヲ以テ進ムナリ胎生第四ヶ月ヨリハ脊髓ハ獨リ  
 漸ク其發育停滯シ第六ヶ月ニ於テ脊髓ハ尙薦骨管内ニ存在スルモ分娩ノ頃ニハ脊髓下端ハ  
 多クハ第三腰椎ノ腔内ニ位スト云フ

蓋シ脊柱脊髓長徑ノ差異ハ既ニ胎生ノ初メ兩者全ク發育ノ不同等ナルニ因ルト云ハサル可カ  
 ラズ、爾後成長ノ關係ニ就テハ、只以上記スル所ニ據ルベキ耳。(未完)

## ○子宮纖維性筋腫ト多房性卵巢囊腫併發症ノ一例

醫學得業士 越野義三郎

(澤金)

余嘗テ本題ニ就テ十全會講話會ニ於テ會員諸氏ノ清聽ヲ汚カシタルコトアリシモ三十分時中脱  
 漏少ナカラス今補綴シテ再ビ諸賢ニ見ユト云フ

本病ノ一例ヲ陳述スルニ先チ患者ノ既往症ニ對照シテ其原因上相關聯スル者ノミヲ畧述セン  
 トス

子宮纖維性筋腫ハ子宮腫瘤中最多ヲ占メ殊ニ病症ハ一汎ニ輕度ナルヲ以テ醫診ヲ乞ハス不知  
 不識ノ間ニ經過シ死後解剖臺ニ於テ發見セラル、モノモ少シトセズ